



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第81号

発行:2013年1月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

年頭所感

～法人創立30年を迎えるにあたって～

医療法人社団鵬友会 理事長 児玉 喜直



皆様明けましておめでとうございます。皆様はどのような新年を迎えられたでしょうか。振り返ってみますと、昨年も一昨年に続き実にいろいろな事がありました。東日本大震災や福島原発事故の復興もなかなか進まない中で多くの著名人、有名人が惜しまれつつ、世を去りました。そして年の瀬の衆議院選挙、政権交代等、実にめまぐるしい1年でした。

今後の医療・福祉の世界を考えてみると、アベノミクス等と言う造語が流行っているようですが、我々国民に巨額の負担を強いながら、国民の為の医療や福祉の方には殆どまわってきそうもありません。このような情勢の中でも私達は生き残っていかなければなりません、その為のヒントが、かのダーウィンの進化論にあるように思われます。つまり“強い者、大きい者が生き残れるとは限らない、変化できた者だけが生き残れる。”

ところで、今いる職員の人達で覚えている人は何人いるでしょうか。あの湘南泉病院の前身であった古びた、しかし懐かしくもある木造二階建ての阿久和病院の事を。あれからよくここまでの設備と規模の充実した病院になったものだと思います。それはあの当時から現在に至るまで、その時その時代の職員の皆さん達の仕事への熱意としっかりとした責任

感に支えられて、この病院や施設が変化してきたからに他なりません。昨日より今日、今日より明日へと少しずつ、より質の高い医療を目指して創意工夫をし、また先人のその上に積み重ねてきた結果だと思えます。

ミスの許されない、時には苦しい場面もある職場でありながら、どのセクションからも時おり和やかな声が聞こえ、明るい空気がチームワークを支えているように私には思えます。

当法人では昨年末に横浜ほうゆう病院が病院機能評価の審査を受け、今年は湘南泉病院が2回目の審査を受けます。皆様の強いチームワークと頑張りによって必ずや良い結果が出るものと思っています。

今年の夏、8月31日(土)にベイシェラトンホテルにおいて特定医療法人社団鵬友会の30周年記念式典が執り行われます。30年と言う時間が長いのか短いと感じるかはそれぞれですが、そこには数々の先人職員達の弛まぬ苦勞の積み重ねがあった事を忘れてはならないと思えます。そしてさらなる50周年には、この地にこの病院がある事が地域の誇りとなり、ここの職員である事が世間の人々から信頼を受けるような、そんな夢と希望を持ってみんなで新しい変化を遂げて行きましよう。



謹賀新年



～新年会でお餅つき～

介護老人保健施設 阿久和鳳荘

平成25年1月9日（水）介護老人保健施設阿久和鳳荘で新年会を行い、正月ならではの出し物で新年のお祝いをしました。お正月と言えば…そう！獅子舞ですね。本来ならインパクト抜群の職員お手製段ボール獅子舞の出番！といったところですが、今年はボランティアの方のご協力で、本物の獅子舞を披露して頂くことになりました。

獅子が入場し、お囃子に合わせ会場をところ狭しと舞う姿は圧巻。参加者の方々からも自然と手拍子が始まり、皆さん食い入るように見入っていました。

後半は、職員有志による餅つき。職員の息の合った(!?) 掛け合いに触発されたのか、会場の利用者も続々と参加し、あっという間に、収集のつかない大餅つき大会状態に。お餅はやはり“何か”持っているようです…。皆でついたお餅はおやつにおしるこにして頂きました。



鵬友会 研修レポート



看護係長・主任研修

H24.10/27（土）湘南泉病院 会議室

『100-1=0』

毎年、鵬友会合同で行われている、看護係長・主任研修。今年は「医療安全」をメインテーマにして行われました。横浜ほうゆう病院で安全管理を担当している大竹専従看護師が講義を行い、普段の業務内容の紹介や、過去の事例をもとに事故発生から原因の究明、対応方法に至るまでの流れについて説明しました。

その中で大竹看護師は「事故原因の大部分を占めるのは、確認不足（＝思い込み）であり、無意識で行っている分、防ぐことは難しい」としたうえで「やはり重要なのは、基準を遵守すること」さらに「それに伴ってマニュアルについても常に評価・改訂を行い、現場の実情に合った実行可能なものにしないと意味が無い」と述べ、原点再確認の必要性やマニュアルの活用方法を指摘。さらに参加職員に向け「患者さんの目つき、顔つきといったところを良く観察し、“いつもと違う”という感覚を大切にしてください」と期待を込めて話しました。

講義の最後には、家族とのリスクコミュニケーションについて触れ「皆さんがどんなに頑張っている、何か1つ悪いことが起こると、その病院はダメな病院になってしまうこともある。医療では100-1=0になってしまうんです」と医療現場でのリスクが持つ怖さについて強調し、参加者に注意を促しました。



【医療安全管理室
大竹 専従看護師】



【池島事務局長の講義】



【講義風景】



【永澤顧問の講義】